

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りとるみかん		
○保護者評価実施期間	2024年12月2日 0:00		2024年12月25日 0:00
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2024年12月2日 0:00		2024年12月25日 0:00
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月4日		
○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	第2の家のように温かい雰囲気の中、子どもたちがのびのび過ごせること	温かい雰囲気を大切にしながら、安心できる環境を提供し、一人ひとりに寄り添った関わりをしている	保護者との連携を深め、家庭と事業所が一体となった支援体制を強化する
2	保育士、看護師、リハビリスタッフ等、多職種で支援できる	スタッフ間で情報共有を密に行い、専門性を活かしながら連携した支援を提供している	外部研修や勉強会を活用し、多職種のスキルアップを促進する
3	保護者や子どもに寄り添いながら丁寧に関わることを大切にしている	子どものペースを尊重しながら、心身の成長を促す支援を行い、保護者との日々の対話を大切にしている	支援計画を保護者とも共有し、より納得感のある支援を提供する
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修や勉強会の機会が少ない	業務時間内に時間を確保することが難しい	オンライン研修の活用や、短時間で参加できる勉強会の実施を検討する
2	職員間での話し合いの時間が十分に確保できない	業務に追われ、タイミングを見つけるのが難しい	ミーティングの定期開催や、情報共有ツールの活用を進める
3	地域の関係機関との連携が十分ではない	交流の機会が少なく、情報共有が難しい	施設間の合同研修や情報交換の場を設け、連携を強化する

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	りとるみかん					公表日	2025年2月28日			
						利用児童数	13	回収数	13	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	2	1			限られたスペースを有効活用し、活動に応じた空間の使い分けを継続する。		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	10	1		2		必要に応じて人員調整を行い、支援が滞らないように配慮する。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	2		4		引き続き、環境の工夫を行い、より分かりやすい構造化を検討する。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	1		3		清潔な環境維持に努め、活動内容に応じた空間設定を継続する。		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	1				引き続き、専門性を活かした支援を行い、職員の知識向上を図る。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	1				支援プログラムを定期的に見直し、実態に即した内容となるよう努める。		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	1				引き続き、個別支援計画を丁寧に作成し、ニーズに即した支援を実施する。		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	1		1		ガイドラインに沿った支援を維持し、必要に応じて計画の見直しを行う。		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	1				計画の共有と振り返りを継続し、適切な支援の提供を維持する。		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	1		1		引き続き、季節やこどもの興味に応じた多様な活動を企画する。		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	1	2	9	あるのかどうか知りません	交流機会を増やすため、地域の機関との連携の可能性を検討する。		
保護 者へ の説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12	1				引き続き、分かりやすく丁寧な説明を行うよう努める。		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	1	1	1		説明の充実を図り、保護者の理解を深める機会を増やす。		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	2	2	5		今後、保護者向けの研修や情報提供の場を設けることを検討する。		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	1				引き続き、保護者との情報共有を密に行い、共通理解を深める。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1	3	1		面談機会の充実を図り、保護者の相談により応じられる体制を整える。		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	2				引き続き、こどもと保護者に寄り添った支援を行う。		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		2	5	6	あるのかどうか知りません	今後、保護者交流の場の提供を検討する。		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	2		2		引き続き、迅速で適切な対応を維持し、相談しやすい環境を整える。		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	1			引き続き、通信やSNSを活用し、情報発信を行う。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	1	1	2	引き続き、個人情報管理を徹底する。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	1		2	マニュアルの周知を徹底し、訓練の実施を検討する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	1	1	2	訓練の実施回数を増やし、安全管理を強化する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1		7	必要な対策を講じ、定期的な見直しを行う。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11	1		1	引き続き、迅速かつ丁寧な対応を維持する。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	1		4	引き続き、安心できる環境作りに努める。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12	1			引き続き、楽しい活動や環境作りを行う。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11	1		1	引き続き、質の高い支援を提供し続ける。
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	1			今後も継続的に保護者の声を反映し、支援の改善を図る。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	りとるみかん				公表日	2025年2月28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		レ	活動する内容によって空間を分けている	スペースが限られているため、活動内容ごとの環境設定を工夫する。必要に応じて設備の改善を検討する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	レ		決められた人員配置は満たしている、欠けたときは他に協力を要請している。	人員配置基準は満たしているが、突発的な欠員時の対応強化が必要。支援が滞らないよう、代替措置を明確にする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	レ		ワンフロアのため、空間は見やすくわかりやすい	現状は視認性の高い空間設計ができているが、より明確な視覚的支援の強化や環境の見直しを定期的に行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		レ	清潔は保つように心がけている。また、活動によって空間を分けるようにしている。	スペースが限られ、すべての活動を同じ部屋で行う必要があるため、動線を整理し、より快適な空間を確保する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		レ	別室はないが、必要に応じて仕切りなどで空間を分けるようにしている	別室がないため、パーティションなどを活用し、個別支援が可能な空間を確保する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	レ		職員同士で振り返りや情報交換をしている	定期的な振り返りは実施しているが、具体的な改善策を職員間でより深く議論する機会を増やす。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	レ		しっかりと受け止め、改善に向けて話し合いをする	保護者の意見を反映する場をさらに明確化し、改善点を共有しながら具体的な対策を講じる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	レ		日ごろから話をしやすい環境づくりを心掛けている	日々の業務に追われ、深い議論ができる時間が確保しにくい。短時間でも意見交換の場を設ける工夫が必要。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		レ	機会がまだない	外部評価の機会がないため、関係機関や第三者の視点を取り入れる機会を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		レ	機会がまだない	研修機会が限られているため、オンライン研修の活用や短時間の内部研修の開催を検討する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		レ	公表はされていない	支援プログラムの公表が十分ではないため、保護者向けに説明を充実させる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	レ		ニーズを聞き、見直しも行っている	引き続き、モニタリングを徹底し、適宜計画を見直す。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	レ		計画案を立て、会議の場を設け作成している	現状は共有されているが、さらに深く議論する場を増やし、支援の方向性を明確化する。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	レ		計画は共有し、沿った支援につなげている	引き続き、定期的なモニタリングと職員間の共有を徹底する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	レ		日々の様子は記録に残している	インフォーマルなアセスメントは行えているが、フォーマルな評価ツールの活用を検討する。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	レ		支援内容等、共通理解し、支援につながられている	引き続き、ガイドラインを踏まえた計画作成を徹底する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	レ		職員間で話し合いながら立てている	職員間の意見交換をより活発化し、多様なアイデアを取り入れる工夫が必要。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	レ		季節に合った内容等工夫しながら行っている	季節や子どもの興味に応じた内容を引き続き充実させる。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	レ		情報共有しながら計画を作成し、支援している	活動のバランスを引き続き考慮し、より柔軟に対応する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	レ		情報共有しながら行き振り返りもできている	引き続き、効率的に情報共有を行い、支援の質を向上させる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	レ		なるべく毎日子どもの様子等話し合うようにしている	なるべく毎日実施しているが、記録として残し、改善につなげる仕組みを強化する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	レ		毎日子どもの様子を記録で来ている	記録の精度を高め、支援計画の見直しに活用する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	レ		モニタリングは半年に一回は行い、見直し計画を立てている	半年ごとの見直しに加え、必要に応じて柔軟に対応できる体制を整える。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	レ		機会がまだない	現状、機会が少ないため、関係機関との連携を強化する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	レ		必要に応じて、連絡をとりながら行っている	必要に応じて連絡を取っているが、より密な連携を図るための機会を増やす。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	レ		現状密には行えていない	現状、密な連携は取れていないため、情報共有の機会を増やす工夫が必要。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	レ		様子を見に来てもらったりする機会がある	学校との情報共有をより円滑にするため、支援会議等の機会を増やすことを検討する。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			現状機会がない	必要に応じて連携できる仕組みを整える。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。			現状行えていない	現状行えていないため、交流の機会を検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	レ		送迎時に様子をお伝えしたり、必要に応じて機会を設けている	送迎時の情報共有を継続し、必要に応じて個別の相談機会を設ける。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	レ		現状行えていない	現状は個別対応が中心のため、保護者全体向けの研修機会を検討する。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	レ		丁寧に説明するように心がけている	引き続き、保護者への分かりやすい説明を心がける。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	レ		行っている	引き続き、意向を十分に確認し、支援計画に反映する。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	レ		説明同意を得るようにしている	引き続き、支援計画の説明を丁寧に言い、納得を得た上で支援を進める。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	レ		日ごろから話をできるように心がけている	引き続き、日常的に相談しやすい環境を整える。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。			現状はない	現状は交流の場が少ないため、定期的な交流会の開催を検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	レ		対応するようにしている	相談窓口の周知を徹底し、対応の迅速化を図る。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	レ		月に1回おたよりを出している	おたよりは月1回発行しているが、SNS等の活用も検討する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	レ		書類に関しては鍵付きの棚に保管している	引き続き、鍵付きの保管棚を活用し、適切な管理を徹底する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	レ		保護者とはなるべくとるようにしている	引き続き、分かりやすい言葉や視覚的支援を活用し、円滑な意思疎通を図る。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			現状行えていない	現状は行えていないが、地域イベントへの参加を検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	レ		マニュアルはあるが、訓練はできていない	マニュアルの周知徹底と、定期的な防災訓練の実施を計画する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	レ		年2回に避難訓練はしようと考えている	訓練の実施頻度や内容を見直し、実践的な訓練を強化する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	レ		保護者に確認とれている	引き続き、保護者との情報共有を徹底する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	レ		保護者の情報指示のもと行っている	現状の対応を継続しつつ、誤食防止策を強化する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	レ		安全管理はしているが、計画はない	現状は計画がないため、安全計画の策定を検討する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	レ		安全計画がない	安全対策について保護者にも情報提供し、共通理解を図る。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	レ		行えている	引き続き、ヒヤリハット報告を徹底し、対策を講じる。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	レ		研修報告等で周知するようにしている	研修の機会を増やし、職員の意識向上を図る。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	レ		計画書に記載し、同意を得ている	計画の見直しを適時行い、必要最小限の対応に留めるよう努める。	